



No. 106

発行人 渋沢 茂
発行所・事務局一般社団法人千葉県社会福祉士会
〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港7-1
ファーストビル千葉みなと3F
TEL 043-238-2866
Fax 043-238-2867
<http://www.cswchiba.com/>
E-mail: office@cschwiba.com

※ 点と線はメール配信でも読めます！

特集 社会福祉士の倫理綱領・行動規範 改訂



規範とは、私たちが判断をする時の拠るべき基準や指針である。

私たちが生活する社会における規範とは、法律、慣習や伝統、道徳や倫理である。

倫理とは何であろうか？ 倫（人が修め守るべきみち、仲間）理（ことわり、道理）であり、私たちが守るべき道理を意味している。

我々は、知識、技術の専門性と倫理性の維持、向上が専門職の責務であることを認識し、倫理綱領を制定してこれを遵守することを誓約している職能団体である。

《 特集 》

- 2 社会福祉士の倫理綱領 社会福祉士の行動規範 改訂
- 8 社会福祉士のわ
- 10 活躍する社会福祉士
- 11 認定社会福祉士認定研修を受けてみました
- 12 事務局便り

特集

社会福祉士の倫理綱領
社会福祉士の行動規範 改訂社会福祉士の倫理綱領
改定作業の経緯

二〇一四年七月、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）国際会議（メルボルン会議）において、二〇〇〇年の「ソーシャルワークの定義」の改正案「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」（以下、新グローバル定義）が採択された。

日本ソーシャルワーカー協会、日本医療社会事業協会、日本社会福祉士会、日本精神保健福祉士協会、各団体の代表者三名（合計十二名）からなる「日本ソーシャルワーカー連盟倫理綱領委員会」を発足し、パブリックコメントによる各団体の会員からの意見等を参考にしながら改訂に向けた検討作業が進められ、倫理綱領委員会の名のもとに、日本ソーシャルワーカー連盟代表者会

議に「ソーシャルワーカーの倫理綱領」（成文）として報告された。そこで、各団体の倫理綱領として施行される際、倫理綱領のタイトルに各団体名を使用することについて合意確認された。

日本社会福祉士会総会では、二〇二〇年六月三〇日「社会福祉士の倫理綱領」、二〇二一年三月二十日「社会福祉士の行動規範」改訂が採択された。

新倫理綱領の変更点

●新定義改訂のポイント

新定義では問題解決という言葉が姿を消し、ウェルビーイングを高めることを目指し、生活課題に取り組むことを支援し人々やさまざまな構造に働きかけるという視点が導入された。主体的に社会を変えて

いくという役割を担うという自覚を強烈に求めている。

●倫理綱領でのクライアントとは

グローバル定義に照らし、前倫理綱領の「利用者」という表現から変更し、「ソーシャルワーカーに支援を求める人々」、「ソーシャルワークが必要な人々」および「変革や開発、結束の必要な社会に含まれるすべての人々」を指すようになった。例えば、地域住民全体も対象となる。

●「価値と原則」から「原理」へ

グローバル定義で挙げられた「諸原理（principles）」に沿って原理とした。価値（values）よりも絶対的でゆるがないもの。

●人間の尊厳

性に関する事項をさらに詳細に記載した。

●人権

追加された項目。ソーシャルワーカーは、すべての人々が生まれながらにして侵すことのできない権利を有する存在であることを認識し、いかなる理由によってもその権利の抑圧・侵害・略奪を容認しない。

●社会正義

自由、平等、共生に基づく社会正義の実現を損なうものの一つとして、差別、貧困、抑圧、排除に、新たに「無関心」を追加した。

●集団的責任

地域での、相互にたすけあう一人ひとりがコミュニティの一員なのだという考えを追加。ソーシャルワーカーは、集団の有する力と責任を認識し、人と環境の双方に働きかけて、互恵的な社会の実現に貢献する。

●多様性の尊重

追加された項目。ソーシャルワーカーは、個人、家族、集団、地域社会に存在する多様性を認識し、それらを尊重する社会の実現をめざす。

●全人的存在

追加された項目。例えば、認知症の人としてのみとらえるのではなく、「○○さん」という個人のいろいろな観点から捉える。

●クライアントの自己決定の尊重

「クライアントの自己決定が本人の生命や健康を大きく損ねる場合や、他者の権利を脅かすような場合は、人と環境の相互作用の視点か

らクライエントとそこに関係する人々相互のウェルビーイングの調和を図ることに努める。」を追加。

●参加の促進

クライエントが自らの人生に影響を及ぼす決定や行動のすべての局面において、完全な関与と参加を促進する。

●記録の開示

社会福祉士は、クライエントから記録の開示の要求があった場合、非開示とすべき正当な事由がない限り、クライエントに記録を開示する。

●差別や虐待の禁止

セクシャルハラスメントからさらに広義に変更した。

●権利擁護

クライエントの権利を擁護し、その行使を促進する。「利用者を擁護し、あらゆる権利侵害の発生を防止する」から「権利の行使を促進する」と、より積極的な姿勢に変更。

●情報処理技術の適切な使用

SNS等にフェイクなものにより権利を侵害されることもあるという危険性を踏まえて追加。

●組織・職場に対する倫理責任

クライエントの利益と所属機関の方針との間でズレが生じる場合でソーシャルワーカーが倫理的ジレンマを経験することは少なくなく、所属機関とソーシャルワーカーの関係を整理する必要性は高いと考え、本基準をソーシャルワーカーが所属する機関に対する倫理責任に焦点化し「組織・職場に対する倫理責任」とした。また、独立型事務所などの一人職場のソーシャルワーカーも、地域のネットワーク組織のなかで働いていることから本基準に該当する点を示した。

●最良の実践を行う責務

福祉、保健、医療などソーシャルワーカーが働く組織の基本理念は、ソーシャルワークと通じるものであるため、最良の業務を遂行するにあたり、組織の使命と認識するところから始めることを明記。

●同僚などへの敬意

旧条文では、他の専門職等との連携・協働となっていたものを変更。職種の違いを超えたものとしている。また、同僚は上司や部下も含む。

●倫理綱領の理解の促進

ソーシャルワーカーの実践が倫理綱領に基づくものであることを職場・組織に浸透させることを主眼とした。

●倫理実践の推進

前綱領の業務改善の推進から、倫理上のジレンマに焦点を当て、そのジレンマを乗り越える責務を示すこととした。組織・職場の方針、規則、業務命令がソーシャルワークの倫理実践を妨げる場合は、適切・妥当な方法・手段によって提言し、改善を図る。

●組織内アドボカシーの促進、組織改革

組織・職場における虐待や差別的・抑圧的な行為の予防・防止の促進を図ること、人々のニーズや社会状況の変化に応じた組織改革を図ることをソーシャルワーカーの倫理責任として位置付けた。今まで職場のアセスメントが弱かったが、必要な改革の提案が求められる。

●社会に対する倫理責任

社会には身近な地域も含む。社会への働きかけの項目では、「人々の

主体性を活かしながら」を追記。

人々のためにというより、人々の主体性を活かし、強みを生かし、共に行うという視点が大切。国に捉われず、地球規模という意味のグローバル社会への働きかけと変更。

●専門性の向上

必要な資格の所持を追記。本会の場合は、すでに資格を所持していることから、関連する他の資格や認定社会福祉士を目指すことも含まれる。

●自己管理

ソーシャルワーカーは、何らかの個人的・社会的な困難に直面し、それが専門的判断や業務遂行に影響する場合、クライエントや他の人々を守るために必要な対応を行い、自己管理に努める。精神労働の領域としてとらえられるソーシャルワーカーが自分管理、セルフメンテナンスを重視することを追加。

●まとめ

日本では、地域共生社会の実現に向けた動きが進められている。ソーシャルワーカーに対して、地域の多様な福祉課題の対応のため、地域に

対して持っている知識、ノウハウを還元することで、マクロな働きかけが求められている。

※本項は、印西・白井・栄・成田・佐倉・四街道・八街合同地域集会議録（社会福祉法人酒々井町社会福祉協議会 久保 隆氏作成）をもとに編集。

印西・白井・栄・成田・酒々井・富里・佐倉・四街道・八街合同地域集会議開催報告と私のソーシャルアクション

特定非営利活動法人リンク
印西地区世話人

赤堀久里子（あかほり くりこ）

地域集会議報告

〔開催日時〕

令和三年一月二三日

一三時半～一六時 ZOOMにて

「社会福祉士がとらえるべき人権の視点」新倫理綱領に学ぶ」

講師 中田 雅章 氏

認定社会福祉士、日本社会福祉士会理事、岡山県社会福祉士会監事、岡山県教育庁義務教育課生徒指導推進室スクールソーシャルワーカー、中田社会福祉事務所



地域集会（オンライン）での
中田講師説明場面

昨年度に引き続き、今年度も白井・印西・栄・酒々井・富里・成田地区と佐倉・四街道・八街地区合同の地域集会を開催し、地域内外の二

八名の会員にご参加いただきました。今回のテーマは、二〇二〇年六月三十日、社会福祉士の倫理綱領が改められたことで、社会福祉士として知っておくべき視点と、人権の考え方がどのようにアップデートされたのかを学ぶ機会として、両世話人が昨年度より準備をしてきました。講演内容の主だった点として、倫理綱領の変更点を中心に①倫理綱領の成立過程、②ソーシャルワーク専門職のグローバル定義、③クライアントの定義、④「価値と原則」から「原理」へ、⑤各項目の改正ポイント、⑥新倫理綱領の意義とこれ

からのソーシャルワークについてお話をいただきました。

私は、現在、千葉県中核地域生活支援センターさんネット（山武圏域）及び生活困窮者自立支援事業（就労準備支援事業・家計改善支援事業含む）において個（戸）別支援から地域・雇用の場づくりなど実践する中で、ソーシャルワーク専門職に求められる課題の多様化を痛感しています。

例えば「八〇五〇問題」「ひきこもり」「ヤングケアラー」「貧困」「DV・虐待」「マイノリティ」「労働・雇用」「教育」「介護・保育・療育」等々の課題を関係機関等と連携を図りながら早期の課題解決に向け支援をさせていただく日々です。

今回の倫理綱領の変更ポイントとして「社会変革・社会開発・社会的結束」が強調されている点の根本的な事は、ソーシャルワークは個のミクロの支援のみならず、社会に働きかけていくことを求めています。より良い社会を作っていくために、「住みやすい地域を作っていくこと」が社会福祉士には求められてい

るのです。

これからの社会福祉士は地域共生社会の実現に向け、自分の相談者（クライアント）に対する個別支援だけではなく、家族及び地域の生活・福祉課題に対応し、社会福祉士として持っている知識やノウハウを全ての人に還元していかなければならず、地域を基盤とした支援が社会福祉士に求められていることを、中核センターの実践と照らし合わせながら振り返る機会となりました。

私のアクションプラン

本研修では、参加者一人ひとりのアクションプランを共有させていただきましたが、改めて私のアクションプランを最後にまとめとして述べてさせていただきます。社会正義の実現に向け、日々の地域支援活動の実践を積み重ねることで、相談者（クライアント）と地域のエンパワメントを高めるため活動することと、自分自身の健康管理と職場内の風通しの良い関係性を維持することとを肝に銘じ、今後もこのような社会福祉士の仲間が集い学び合える

『場』を継続的に創造することができ、社会福祉士となることを使命とし、更に社会福祉実践活動に精進していきます！

事例紹介

重層的支援とか包括的支援、総合相談のイメージを共有するために二事例紹介します。

事例① 難病の家族への支援

四十歳代の母親と十代の姉弟の三人は生活保護を受給しながら生活。息子が中学生のころに難病のため歩行困難となり、登校が困難となるも定時制高校進学。その後、母親も同様の症状が出現し、脊髄周辺の腫瘍摘出のため入院加療となり歩行不能となる。現在の自宅が賃貸アパートの二階であり、退院後の療養生活に支障が生じるため、転居先を探し、転居に伴う手続きを支援する。経過の中で、娘も同様の病気が判明し、自立支援医療の手続き等に関する情報共有を医療機関と行った。現在も家族全員の身体的機能の低下によるサービス利用の調整や面談等による精神的サポート、学業等での社会活動への参加とその保障に

ついて、関係機関と連携をしながら、その人（家族）らしい生活の実現に向けた支援を行っている。

事例② 未成年自殺未遂者への支援

高校生女子。夏休み明けに自殺未遂のため、救急病院に搬送となり在籍する学校より支援依頼を受けた。母親と姉、学校や家庭児童相談員、スクールソーシャルワーカー、医療機関、児童相談所等と関係者会議を行いながら、本人及び家庭全体の支援を行う。本人は、精神科への受診拒否があり継続的な治療を導入することが困難な状態が続いていた。不登校状態であったため担任教師の週一回訪問と当センターの訪問を実施することで、本人との関係性の構築と家族支援を行った。現在は、外出こそまだ難しい状態であるが、精神科の受診を開始した。

「想像性」と「創造性」そして「実効性」と「可能性」へ！

社会福祉士として、人権や権利意識を持って、教育や医療等との連携を図りながら、ニーズの把握、課題解決に向けたチームアプローチを行うだけではなく、そこにない制度

やサービスは、「創り出す」努力を惜しまないことが大切だと思います。

基礎研修より学んだ倫理綱領や行動規範について考える

旭神経内科

リハビリテーション病院

吉田 豊（よしだ ゆたか）

地域集会（オンライン）参加場面



私は二〇〇四年に社会福祉士の資格を取得し、以後病院、通所介護、介護老人保健施設、地域包括支援センターで相談援助業務を行ってきたが、日々業務を行う中で自分が行ってきた支援について客観的に振り返る機会や他に良い方法があるかとの知見を得ることが少なかった。それは自分の感性や感情、考え方にこだわり、偏った提案や支援を知らず知らずのうちにやっている

危険を孕んでいるため、改めて社会福祉士としての専門性、倫理綱領、行動規範等を見直して、専門性を高めていきたいと考え、二〇一八年から基礎研修を受講している。

基礎研修で倫理綱領や行動規範を改めて学び直すことで私の日々の業務を行う上で変化したことは、自分の行った支援や提案を客観的に振り返り、こうした支援で良かったか、もつと他に提案出来ることになかったかということを倫理綱領や行動規範を基にして考えるようになったことである。社会福祉士としての専門性は相談内容に対して事務的に対策を伝えるだけでなく、問題に至るまでの過程や背景を共に見つけ、最新の制度や社会資源を駆使して最善の解決方法を相談者と共に考えていくことであると考える。自分が他の職種には無い専門性を以って相談者と接する存在であること、相談者の訴えを表面的に受け止めるのではなく、訴えの背景、過程、相談者の人となりに関心を寄せて話を聴くこと、自らの感情、感性、価値観で支援を行うとしても偏

った考え方を押し付けていないかということ、を強く意識しながら支援を行うようになったと考えている。また基礎研修では自分と異なる分野、異なる地域からの受講者がおり、講義や演習において一つの課題からでも様々な角度からの考え方を聞くことや、それぞれの分野や地域での支援について情報交換ができることで知見を広げていけることが大きな財産となっている。

私が勤務する病院では昨年からのCOVID-19流行に加え、家庭環境の変化（独居、老老介護、介護者不在、家族に精神疾患や身体障害あり、虐待、生活困窮）や地域の住民同士の関係の希薄さ等を背景にして、認知症等の受診相談の件数増加や相談内容の複雑化（多世代、多分野に亘る問題）への対応を求められている。限られた時間で様々な課題に対応するために一件一件の相談にじっくりと耳を傾け、解決方法を考えることができないと感じることが増えており、社会福祉士という専門職としての相談支援が行えていないのではないかという葛

藤を感じることもある。時間と業務量に追われて相談者と向き合うということを忘れてしまいそうになるが、その度にこれまで学んだ倫理綱領や行動規範を思い返し、日々忙しくても自らの支援を振り返り、その支援で良かったか、他に出来ることはないかということを考え、相談者に寄り添いながら解決方法を考えていくことを続けていきたいと思う。

喉の小骨（公務員と倫理綱領・行動規範）

佐倉市健康こども部こども家庭課

岡本崇広（おかもと たかひろ）



役所に入ってから的大部分を福祉の相談・虐待対応部門で過ごし、

口さがない職員から「お前は役所の底辺を歩いている」と言われながら気がつけば二十年。先日職場から表彰状を受け取り（裏紙に紙飛行機にしようとしたら怒られ）ました。

閑話休題、学生時代の不勉強を悔やみながら少しずつ取り返していた二十代後半。当時お世話になっていた社会福祉士会の自主活動勉強会（懐かしの「あしびの会」）で倫理綱領、倫理基準と行動規範を紐解いた私は内心頭を抱えました。

いえ、とても良く練られた内容であることは一読して明らかでしたし、最良の実践は当然のこと、業務改善や社会への働きかけができていなかったのは単純に自分の力量の問題であって異論はありません。立ち塞がったのはこの一文。

1. 利用者に対する倫理責任

⑦プライバシーの尊重

社会福祉士は、利用者のプライバシーを最大限に尊重し、関係者から情報を得る場合、その利用者から同意を得る。

それに伴う行動規範にはこう書かれていました。

7・2. 社会福祉士は、利用者の個人情報収集する場合、その都度利用者の了解を得なければならない。
7・3. 社会福祉士は、問題解決を

支援するためであっても、利用者が了解しない場合は、個人情報を使用してはならない。

役所以外にお勤めの方、あるいは役所でも別部署の方には「何を当然の事を」と言われるかもしれませんが、けれど当時（一周回って今も）私がしているのは児童虐待やDV対応。利用者ってそもそも誰？

親から虐待受けている子どもの情報得るために親権者の同意を得る？

話を広げて、成年後見制度の首長申立ては？

自死の予告を受けたら？

災害時は？

仕事をしない言い訳にはできませんし、片目をつぶって現場対応を優先してきたものの、この喉の奥に刺さった小骨は長らく抜けませんでした。今回（二〇二一年三月）の改訂で、

8・（プライバシーの尊重と秘密の保持）（略）

8・2. 社会福祉士は、クライエン

トの情報を収集する場合、クライアントの同意を得なければならぬ。ただし、合理的な理由がある場合（生命、人体又は財産の保護のために緊急に必要な場合など）は、この限りではない。

と改められました。しかし、続く8・3・（旧行動規範では8・1・）以降には、

8・3・社会福祉士は、業務の遂行にあたり、必要以上の情報収集をしてはならない。

8・4・社会福祉士は、合理的な理由がある場合を除き、クライアントの同意を得ることなく収集した情報を使用してはならない。と定められています。

ご存知の方も多いかも知れませんが、役所がその気になれば意外と多くの情報を集められます。必要性より興味が先行した情報収集や、終結したケースのその後が……何て例もあり得る話。申請主義とは異なるクライアントの同意を前提としない業務で、いつ何を調べ、どの情報を何に用いるのか。小骨の痕は今も残ります。

まとめ

ケアハウス四季の里

岩間 太一（いわま たいち）

二〇〇〇年、ソーシャルワークの定義が採択され、その定義に対しアジア太平洋地域から、集団的な権利や社会的結束が排除されているという指摘や、先住民の知に対する認識不足、ラテンアメリカから、社会変革への注目の少なさの指摘、そして何よりソーシャルワーク理論の活用に対する言及がなされていないという指摘等を受け、二〇一四年、ソーシャルワークのグローバル定義という形で見直しがされました。グローバル定義には、「集団的責任」と「多様性の尊重」というソーシャルワークの価値、「社会開発」と「社会的結束」という目指すべきもの、そして、「ソーシャルワークの理論や地域、民族固有の知等」を基盤として「人々や様々な構造に働きかける」という使用する技術とどこに働きかけるのかということが、新たに明文化されました。

このグローバル定義の採択に基づき、今回の新たな倫理綱領、行動

規範が制定されました。私達にとってこの倫理綱領は、社会福祉士としての土台、基盤となる部分です。ソーシャルワーカーとして説明責任を果たすには、倫理・価値、そして各ソーシャルワーク理論を根拠として言語化することが、専門職として必要になります。

昨今社会福祉士に対する期待や、活躍の場がどんどん増えていると思います。自分達の活躍の場が増え、専門職として認知され、待遇を変えていくようソーシャルアクションすることはとても大事なことです。そこに比例するように、自分達が経験則だけではなく、専門職として根拠に基づいた支援ができるよう、自分達の足元を見て、底上げしていくことが何より重要と最近思っています。

その昔、先輩の虐待ケース対応の中で、「これが危機介入アプローチだよ」と教えていただいたことがあります。その時、私の解釈としては、「緊急措置、対応が危機介入」という解釈をしましたが、それは大きな間違いです。危機介入アプローチは、喪失体験等を経験し、感情に混乱をきたすクライアントに対し短期的に、グリーフケア等悲観作業を共に

行い、クライアントの対処能力を引き出し、併せて適切な社会資源も活用することを主としています。上記解釈ではただの緊急対応、緊急措置で、それは別にソーシャルワーカーでなくてもできることです。数年前に私もそのことを知ることができ、恥ずかしいというか、情けないというか。しかし、危機介入アプローチと虐待対応等を勘違いしている社会福祉士は、実は多いんじゃないかと思います。自分達固有の技術を、自分達が正しく知ることの大切さ、また、そういった社会福祉士が増えていくことが、何よりも社会に対する責任だと思っています。

倫理や価値は私達の土台ですが、現実との間にジレンマを起こすことがあると思います。岡本さんの記事でも、倫理的ジレンマが表れています。先人達も同じように倫理的ジレンマの壁に当たり、それによって様々なジレンマに対する指針や研究がなされています。ドルゴフ等の倫理原則やリーマーの倫理的意思決定プロセスの指針がその一つです。先人達の築いたものを私達は活用させてもらいながら、新たなものを生み出し、後世に残すこと、そして何より、倫理と現実の中で自問自

答を繰り返す姿は、真摯に社会福祉士としての自分と向き合っている証拠なんじゃないかな、と思います。若輩者が大変失礼で申し訳ありませんが、素直でまっすぐだと思えます。

吉田さんの記事も、自身の事例を倫理や価値に落とし込み、振り返りをすでにしており、私が基礎研修を受けていた頃はこんなに深く考えていなかったで、とても先を行っているなと感じます。支援の中で自分自身を俯瞰しながら、課題や原因にばかり目を向けるのではなく、背景や過程を理解しようとする姿は、システム理論やエコロジカルモデルを活用し、人と人、環境等の相互作用を理解しようとしているのではないかと思います。

赤堀さんの記事も、今回のグローバル定義、倫理綱領の変更点に沿った、「ソーシャルワークはミクロだけではない」ということを私なんかよりも強く意識し、即座に振り返り、省察を行い、自身の次の行動プランを明確にする、一連のプロセスですで行っているのは、経験学習理論そのものだと言えます。

いつか皆さんと飲みながら、ああでもないこうでもないソーシャ

ルワークを語り合える日々が来るという、と思います。私もまず自分の社会福祉士という仕事を全うできるよう、自己研鑽に励みたいと思います。皆様良い刺激を下さき、ありがとうございます！

注…これ全てスーパージョン、認定研修の受け売りです。皆様もぜひ認定研修へ！

社会福祉士のわ

白井市役所社会福祉課

板橋 史宣

(いたばし ふみのり)

白井市地域包括支援センター鈴木さんからバトンを受け継ぎ、大変光栄なお話をいただきました。私が三十年以上前に大学を卒業し、現在も福祉事務所の仕事を続けていることは、多くの職場の方々や関係機関の方々のお蔭であると、この機会に感謝申し上げる次第です。私が、今もなお社会問題に自問自答しているそもそのきっかけは、学生時代に貧困問題へ導いて頂いた恩師とのご縁であります。

恩師とは現在も他の研究機関の

方々を交え、定期的に社会福祉研究の議論の場を設けていただいております。四半世紀以上にわたりお世話になっております。

恩師は、日本が高度経済成長期であった一九六〇年代にドヤ街の貧困問題に取り組み、当時から現在に至るまで、賀川豊彦氏のお弟子さんたちと賀川豊彦氏のセツルメント活動を継承しています。また、恩師は「都市社会学原理」の著者である鈴木栄太郎先生に師事し、鈴木先生の「時間的秩序と空間的秩序」の理論を用いて、ドヤ街の貧困問題を多角的に分析したことをはじめ、数々の研究・教育業績を残されています。私は、社会福祉の現場で仕事をするうえで、恩師の教えに基づいて支援を行うことが多分にあり、そのひとつが、鈴木栄太郎先生の時間的秩序と個々の集落社会における生活現象に関わる空間的秩序の理論であります。鈴木先生は、社会構造という概念の他に、生活構造という概念を重視します。「生活構造とは、個々の集落社会における生活現象の中に見られる様々な時間的秩序の一組と空間的秩序の一組の組み合わせを意味するものである」と先生は考えます。都市正常人口の多く

は、時間的秩序と空間的秩序に規定されていることになります。一般的には、普通のサラリーマンは、月給という時間的秩序の下、普通の空間的秩序に基づく地域に生活します。月給ではない賃金体系の日雇い労働者等は、日給に合った特殊生業所得者居住地区に生活せざるを得ません。(鈴木先生の著書を一部引用)。鈴木先生の「都市社会学原理」によれば、一般的に都市社会は正常人口の生活で成り立っているものであるということになります。ここで示す正常人口の対象は「月給で働くサラリーマン」を示し、昼間は会社で働き、夜、休日を自宅等で過ごし、次世代の正常人口になるための教育等に時間を費やすものであるということになります。しかし、正常生活であった人々が、病気を患い、一時的に正常生活から逸脱し、異常人口となる場合もあるとされており、鈴木先生の様々な理論は、社会構造的に、正常人口の正常生活が一般的であり、その生活は、生活構造的には、時間的秩序と空間的秩序によって説明できるものであるとされており、その相対として、時間的秩序と空間的秩序に当てはめることが難しいとされるのが、

日雇い労働者であるということになります。なぜ、難しいのかについては、彼らの生活が日給という生活構造に縛られているからであります。補足すると、日給では、日々の生活で精一杯であるため、たとえ安いアパートだとしても、毎月の家賃を払うことが難しく、アパートへ入居するための契約金なども払えないからです。

一般的に労働者は、月給か日給のいずれかの給与システムで就労に就きますが、生活構造システムが月給を正常人口としている以上、日給制が特殊であるとならざるを得ないこととなります。これらの理論を引用する上で、実は、現在の貧困問題も、当時の高度成長期と変わることなく、日雇い労働者や派遣労働者問題など、その諸問題は、時代が変わっても、大きな変化がないことに驚く限りであります。恩師が鈴木先生に師事した高度経済成長期もそうですが、私の学生の頃も社会福祉士をはじめとした専門職種などありませんでした。近年では多くの社会福祉関係職種が増えたことは喜ばしいことであります。

しかし多職種になったからか否かは不明ですが、ケースワークとソ

ーシャルワークの違いをはじめとして、ケアマネジメントの手法も混在し、支援する側が支援者に対して「限界」や「ジレンマ」を感じるという報告を聞くことが多くなりました。例えば、生活困窮者自立支援法成立以降、「伴走型支援」という言葉が定着するようになりました。「伴走型支援」という言葉は非常にきれいな言葉です。私が、以前から交流のあるオリンピック経験者のマラソンランナーによれば、「伴走される側の視覚障がい者の方を伴走しながらフルマラソンを走る場合、走るということの基本動作に加え、伴走する側も、される側もお互いの性格や行動を熟知し、伴走する側は常に先手先手を考え、走りながら試行錯誤を繰り返すものである」ということを伺ったことがあります。支援に「限界」という到達点があるかどうかは別として、「ジレンマ」を感じるということは、まさしく「試行錯誤」している最中であり、伴走中に限界を感じてしまったら、伴走される側は迷走することになってしまいます。伴走しながら走る（支援する）ということは、ある意味「泥臭い走り（支援）」が求められるものであり、泥臭い地道な努力

が支援する側に求められるものであると考えます。

私の恩師は、冒頭においても紹介したとおり、現在も賀川豊彦氏のセツルメント活動を賀川豊彦氏のお弟子さんと継承し活動しております。賀川豊彦氏は、生活困窮者自立支援法が成立する一世紀近く前にこの世に生まれ、セツルメント活動を通じて生涯を全うしました。賀川氏が「農業協同組合」や「生活協同組合」、「学生生協」などの礎を築いた人物であることはあまり知られておらず、恩師は、賀川氏の実績が注目されずに眠ったままになっていることに焦りを感じているようです。賀川氏をはじめとした社会事業（慈善事業）の先人たちは、当時の活動において、現在のような多くの社会福祉関係資格制度などなかった時代であります。また、賀川氏を含めた先人たちが残された業績が、きわめて精度の高い実践を積み重ねてきたことは周知のとおりであります。

私は、先人たちの残した偉大な業績が、現代社会の諸問題に対する支援の手法に生かされるべきものが多分にあり、その中に多くのヒントが隠れたままになっているのでは

ないか、と考えることがあります。最後になりますが、私が、現在も学生時代と変わることなく恩師から指導や助言を賜っていることは、大変幸せなことでありますが、そのことの意味について述べたいと思います。

近年、社会福祉諸資格が多くなっただけは不明ですが、「資格があるから何でもできる？」と勘違いする方々が散見されるようになったと感じます。社会福祉の対人援助は、援助する側は援助される側の人生に関わっているという事の重大さを感じるべきであり、相手の人生の一部にお邪魔していることに感謝しなければならぬと考えます。

また、社会福祉の諸問題は、工場のライン作業のように、右から左へ流せば解決するものではなく、時として諸問題を解決するにあたり、社会科学や経済学などの諸科学と連携することも求められることでしょう。今後、現代社会が新型コロナウイルス感染症とどのように向き合うのか等の新たな課題もあり、私自身「限界」という線を自ら引くことができないことの決意を誇りたいと考えます。

活躍する社会福祉士

社会福祉士と保護司のすすめ

犬伏社会福祉士事務所代表

有限会社いずみ野代表取締役
ケアステーションコスモス

犬伏 謙介

(いぬぶせ けんすけ)



みなさんは「保護司」という仕事を
ご存じでしょうか。平成二一年
度の社会福祉士国家試験から「更生
保護制度」が新たに追加となっ
たことで、保護司について学んだ
方はいらっしやると思います。

私は平成二一年から八年間、千
葉刑務所の非常勤の社会福祉士と
して勤務し、主に満期釈放後の帰
住先がない高齢者及び障害がい者
に関する釈放時保護のソーシャル
ワーク業務を担当しました。全国
の刑事施設に福祉士が配置された

り、各都道府県に地域生活定着支
援センターが設置されたりするな
ど、社会福祉士が新たな活躍の場
として更生保護分野に進出したの
がこの頃です。

「保護司」というと、その歴
史は長く、ルーツを遡ると明治二
一年頃からとなり、昭和二五年に
正式に「保護司法」が制定されま
した。

釈放時保護の業務の際、受刑者
が希望する帰住先の状況について、
保護司による「生活環境調整」の
報告を参考にしていたので、私は
保護司の活動を身近に感じていま
した。千葉刑務所を退職した後には、
せつかく学んだ更生保護制度
と対象者の社会復帰に関わりたい
という思いもあり、すぐに保護司
になることを希望しました。

保護司が関与する主な対象者は、
1号観察・少年審判で保護処分と
なった少年、2号観察・少年院か
ら仮退院した少年、3号観察・刑
務所から仮釈放となった者、4号
観察・保護観察付の刑執行猶予判
決を受けた者です。

毎月の業務として、社会内処遇
である「保護観察」が実施されま
すが、地域でソーシャルワーク業
務を行うことが少なくありません。
保護観察では、対象者の改善更生
を図る目的として、指導監督と補
導援助を行います。指導監督につ
いては、パターンリズム的な指導
等が含まれますので、社会福祉士
の接し方としては馴染みがないか
も知れませんが、それは社会福祉
士としてではなく、人生経験の中
からの助言として接しています。

補導援助については、福祉的なア
プローチが必要となり、対象者は
生活課題や家族問題が多く、社会
福祉士としての対人援助技術や社
会資源の活用等、私達の最も得意
とする支援分野となります。

また、対象者との面接は月二回
程度行い、その方法は、保護司の
自宅や会社等と呼び出しをして面
接を行う「来訪面接」、又は保護司
が対象者の自宅を訪問して面接を
行う「往訪面接」があります。私
は往訪面接がメインですが、往訪
面接だけでは、本人の保護観察に

対する取組の意欲が分からないた
め、来訪面接も重要な位置づけと
なり、そのバランスに注意します。
対象者を保護司の自宅に呼んで面
接することについて、家族の理
解が得られない場合がありますの
で、各保護地区に開設されている
「更生保護サポートセンター」で
面接をすることも可能です。場合
によっては、車の中やファミレス
で面接することもあります。

保護司は「民間のボランティア」
と言われていますが「実費弁償金」
という定額の活動費（非課税）が
支給されたり、天皇から授与され
る褒章等の対象となったりします。
保護司としての活動は、被害者
等の苦悩を内に秘め、対象者と共
に悩み、生活課題等を共有するこ
とで社会福祉士の援助技術を十分
に発揮できると実感しています。
女性も多く活躍しており、困難な
ケースは保護観察官が助けてくれ
たりしますが、保護司は全国的に
不足しておりますので、ご興味のある
方は、ぜひ、保護観察所まで
お問合せください。

二〇二〇年度 認定社会福祉士認定研修を受けてみました

ケアハウス四季の里
生活相談員

岩間 太一

(いわま たいち)



新型コロナウイルスが猛威を振るい、高齢者を支援する私達にとつて、出口が見えず、人との接触も極力控えずなくてはならず、籠城を続ける長い長いトンネルの中、「このままではあかん!」と今年の初め、ふと日本社会福祉士会のホームページを見ました。

トップページに山口理事のお顔が見えたのと共に、なんとコロナ禍でずっと開催が見送られていた認定社会福祉士の認定研修開催のお知らせが!「お前、本厄だけどしみじみやれよ…(茨城弁)」と、神様のおぼしめしかと思いました。コロナで停滞する気持ちを前に、という想いも重なり、さっそく受講申込みをつと…うおー!受講要

件に一単位足りない!基礎研修三年、後見育成研修、刑事司法SW研修応用編、スーパービジョン二年間受けていたのですが、あと一単位どう考えても足りず。

すぐるように認定社会福祉士認定機構に電話すると、「eラーニングで制度等の動向を十五時間分受講すれば一単位として認めます」とのご返答が。ありがとうございます。倒し、いざeラーニングを始めるかと、「いや、十五時間つてなかなかだよね」ということに気がきます。

しかも申込みギリギリ。十一日間で視聴。なんとか申込み期限まで間に合い、必要書類を揃え、郵送。受講は抽選とのことと返答を待ちます。数日後「結果落選しました」のメールが。えー!そんなことあるのー!私の十五時間ー!しかしメールをよく見ると、「日本医療社会福祉協会(現日本医療ソーシャルワーカー協会)でも募集しています」の案内が。もう乗り掛かった舟、早速問い合わせし再び受講申込み。晴れて受講決定通知が届きました。ありがとうございます。

ざいます。日本医療SW協会の届いた案内と、事前課題ワークブックの量、質を見て、再び驚愕。ここから改めて私の休憩時間と就寝前の時間を費やす日々が一ヶ月続きます。

ワークブックの大枠の内容は、①ソーシャルワークの価値、倫理に基づいた支援を行えているか。②ソーシャルワークの状況を理解する理論と介入理論を支援に適切に用いているか。③マッピング技術。④ソーシャルワークのプロセスに沿った支援を行えているか。社会福祉士として土台も土台の内容。しかし、経験則だけでは得ることのできない、基礎だからこそ今、社会福祉士が必要な学習だと感じています。

これら内容を自身が体験し、選んだ事例を基にワークブックを進めていき、要所所の事前課題に取り組みます。実際に経験した事例を振り返り、内省省察し、抽象化概念化し、言語化することで、クライエントや多職種、地域、社会等に対し「ソーシャルワーカーとしてどのような根拠で支援を行ったのか」説明責任を果たせるようになることと同時に、ソーシャルワーカー自身の学習を深め、これからの支援に活かすことを目的としており、コルプの経験学習理論を基にプログラムされています。

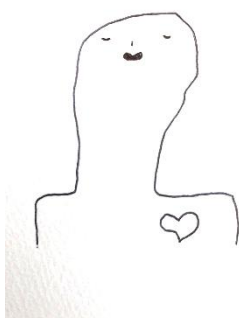
た。

ワークブックを進めながら、ここまでソーシャルワークのグローバル定義や社会福祉士の倫理綱領、システム理論やエコロジカルモデル等、状況を理解するための理論、相互作用理論を一つ一つ自分の事例と照らし合わせながら、倫理の内容を一文ずつ調べ、システム理論の概念を一つ一つ調べたのは初めて。経験だったと思います。というかそれをやらないと事例と照らし合わせられないし、ワーク自体進められません。しかも、課題が標準に達していないと、集合研修に進めません。

事前課題から、「ソーシャルワーカーとしての自分」と向き合い始めることとなったのです。

次回はついにZoom集合研修!に続く。

今回の格言「一日二十四時間だからって、一日で十五時間一気に視聴はできない」



今年も暑い夏が来ました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。

さて、第9回定時総会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、開催か Web 開催か、と模索の中での開催となりました。書面表決をご送付いただいたみなさま、ご協力ありがとうございました。今後とも、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

お忙しい毎日をお過ごしのことと思います。これから暑い日々を迎える時期ですが、くれぐれもご自愛ください。

研修等・行事のお知らせ

研修等につきましては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、政府および千葉県の方針などに基つき、検討のうえ、オンライン研修での開催、感染防止対策を徹底し、集合研修の実施を予定しております。各研修の詳細はホームページにてお知らせいたします。

千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

会員の皆様へお願い

お名前・ご住所・電話 FAX 番号・お勤め先等が変更となった場合、変更届の提出が必要です。入会時と変更がある場合は、事務局までご連絡ください。（E-mail：office@cswhiba.com）変更届は会員名簿巻末に掲載しています。メール、FAX、郵送のいずれかで提出をお願いします。お早めに手続きをお願いします。

ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
佐藤 裕子	—	—	古宮 喜之	千葉市中央区	—
能田 ゆかり	船橋市	江東区教育委員会	阿部 敏哉	—	大網白里市役所
小根山 倫夫	—	—	福井 真一	—	—
島袋 高輔	白井市	(福)フラット	安食 美恵子	市原市	—
飯塚 翔太	鎌ケ谷市	(福)大久保学園	押野 一志	船橋市	花王(株)
岩佐 博行	柏市	司法書士法人あすかフロンティア事務所	渡邊 正史	千葉市若葉区	(福)笑顔(特養)からたち
加藤 慎二	柏市	デイサービスセンターアインキューゲル	江波戸 理恵	銚子市	(福)ロザリオの聖母会障害者就業・生活支援センター東総就業センター
高橋 勇介	香取市	(株)ジェス	菅原 靖顕	船橋市	—
君塚 葉子	茂原市	—	伊藤 純子	—	—
青木 聡	市川市	(福)松涛会(特養)太陽と緑の家藤原	小田 知宏	浦安市	認定 NPO 法人発達わんぱく会
大塚 歩	木更津市	木更津市役所			

※正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

令和3年5月13日現在の会員数

正会員 1,526 名、 準会員 5 名、 賛助会員 2 名 合計 1,533 名